

第31回 北海道通園センター連絡協議会研修会 開催要項

1. 目的 地域で療育に関わる方々が、互いの知識・技術の交流と研修を行なうとともに、関係機関同士の情報交換や親睦を深めることを通して、北海道の障害児通所支援及び障害児相談支援の充実と向上を目指すことを目的とする。
2. 開催日程 令和6年6月28日（金）～ 29日（土）
3. 会場 北海道大学 学术交流会館 （札幌市北区北8条西5丁目8-1）
4. 主催 北海道通園センター連絡協議会
5. 後援（依頼中） 北海道 北海道市長会 北海道町村会
北海道社会福祉協議会 北海道乳幼児療育研究会
全国発達支援通園事業連絡協議会
6. 研修テーマ 「 地域における発達支援の役割とは
～出会った子どもたちに支援者ができること～ 」

7. 日程

1日目

12:30～	13:30～ 14:00	14:00～ 14:15	14:15～ 15:45	16:00～ 17:30	18:00～
受付	総会	開会式	講座	実践報告	懇親会

2日目

9:30～	10:00～ 12:00	12:00～
受付	特別講演	閉会式

8. 内容

(1) 総会 進行 事務局

(2) 開会式
主催者挨拶 北海道通園センター連絡協議会会長

(3) 講座

演 題：「現場で共有できる発達評価と支援の実践」

講 師：北海道こども発達研究センター理事長 木村 正剛 氏

(要 旨)

こどもの発達を語る時、多くの場合は具体的な行動の変化を取り上げて成長の指標としてしています。しかし、その行動変化が支援の結果得られた成長なのか、こども自身の経時的な発達の結果なのかを明確に切り分けて判断することは非常に困難です。また、支援の対象となる問題行動について改善が見られた際、多くの場合において支援する側の主観的な評価となっており、行動変容を数値化して客観的な評価を支援者間で共有することに難しさがあります。支援しているこどもの困り感に寄り添い、問題となっている行動がどのように変化したのかを現場目線で丁寧に捉えること。家族を含め、こどもと関わる全ての支援者と共有できる評価を設定して実践していくこと。これらは発達支援の現場における共通の課題となっているので、一つの解決策として行動評価をお伝えさせていただきます。視点を問題解決に向けてみましょう。こどもの発達支援の現場では、具体的にどのような支援ができるのかという悩みが尽きません。こどもの特性と発達段階に応じて必要な支援を行う。当たり前の様に使われる一文ですが、その内に含まれる個別性、複雑性、そこから派生する数限りない支援の手段を想像するだけで、どこから手を付けてよいのかわからない思考の迷路に陥ってしまうのではないのでしょうか。故に問題点を捉える際の視点の高さが重要となります。つまり、支援する対象は問題となっている行動なのか、その行動の原因なのかです。問題行動が軽減するよう支援したり環境設定したりすることは直接的かつ即効性のある支援です。それはこどもの困難さを軽減する有効な手段ですが、見方を変えるとこどもの発達を後追いする支援ともいえます。困り感がなぜ生じているのか。その原因を考え、支援に組み込む思考の流れと具体的な方法について、実践の観点からお伝えさせていただきます。

(4) 実践報告

①演 題：「恵庭市における市町村中核子ども発達支援センター事業の取り組み」

講 師：恵庭市子ども発達支援センター 地域支援担当主査 葛岡 亮 氏

(要 旨)

恵庭市こども発達支援センターは、平成31年2月に、北海道より「市町村中核子ども発達支援センター」の認定を受けました。今回は、市町村中核子ども支援センター認定に至る前後の経緯と、現在の恵庭市子ども発達支援センター事業・取り組みについてご報告いたします。

②演 題：「千歳市における児童発達支援センターで行う相談支援事業の取り組み」

講 師：千歳市児童発達支援センター 相談支援係長 吉田 雅彦 氏

(要 旨)

千歳市児童発達支援センターは、令和2年4月に北海道から児童発達支援センター事業の認可を受け、通所支援、地域支援、家族支援の充実に努めてまいりました。今回は、特に相談支援事業（千歳市こども相談支援室あーち）で行う相談業務を中心に、家族支援、地域支援の取り組みについて、ご報告いたします。

(5) 特別講演

演 題： 子どもが安心して自分を発揮できる発達支援をめざして
共生社会を生きる子どもたちに伝えたい「それでいいよ だいじょうぶ」

講 師：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター上席総括研究員（兼）センター長
久保山 茂樹 氏

(要 旨)

児童発達支援事業所が全国的に増加しています。

その多くは「こんなことができるようになる」とか「みんなとおなじになれる」と、その「効果」を様々な手段で訴えています。

中には週の半分以上を児童発達支援事業所に通う幼児もいます。

確かに「できないことができるようになる」ことは子どもにとって必要かもしれません。しかし、この会におあつまりのみなさんは、そうしたことだけが発達支援ではないこともよく理解して子どもたちにかかわっていることでしょう。

つまり、子どものよさや得意に着目し、「いまできていること」を豊かにすることの大切さです。

私たちが目指す共生社会は、一人ひとりが大切にされ、多様性が尊重される社会です。これからの長い人生を安心して自分を発揮できるように、子どもたちに「それでいいよ だいじょうぶ」を繰り返し伝えていきたいと思います。

(6) 閉 会 式

主催者挨拶 北海道通園センター連絡協議会 副会長

9. 参加申し込み

定 員：200名

参加費：通園センター連絡協議会 会員施設 1名 2,000円
非会員施設 1名 3,000円

（特別講演のみ参加されたい方は、1,000円にて入場可能です）

*参加費のお支払いは当日受付でお願いいたします。

申し込み方法： 通園センター連絡協議会ホームページの研修会参加申し込みフォームから
お申し込みください。（5月24日公開予定）

申し込み締め切り：令和5年6月14日（金）

10. その他

懇親会～研修会場周辺で、考えております。又、会費は4000円前後になります。

弁当の取り扱いは行ないません。